

## 《X 改革・改善》

### 【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営の中でどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織・規程等の整備状況を記述して下さい。また、今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

本学では、1998年度(1999年9月発行)と2003年度(2004年3月発行)に「自己点検・評価」を行い、報告書を作成し学内のみならず、学外の教育機関等に公表した。本学では、自己点検・評価を4～5年毎に行い、その際に報告書を作成することとしており、本来であれば2008年に自己点検・評価を行い報告書を作成する予定であったが、2009年に第三者評価を受けることとしたため、その後に報告書を作成し公表することとした。

また、自己点検・評価は、本学の実状を正確に把握し、課題を明確にすること、そして、それらの実状と課題を全学で共有し、真摯に課題に取り組むための機会ととらえている。そうした取組みの中で、例えば、食物栄養科の将来構想として、短大から四年制大学への昇格(平成21年度申請予定)という大きなプロジェクトを立ち上げた。幼児教育科においても、取得できる資格を増やす取組みや、検討委員会を立ち上げ将来構想を検討するなどの取組みが行われてきた。

さらに、自己点検・評価を継続的に行うために、自己評価委員会を校務分掌の中に設置し、必要に応じて具体的な作業部会である自己評価専門委員会を設置している。自己評価委員会は、学長・短期大学部長・学科長・学生部次長で構成され、事務局が事務を担当している。

今回の第三者評価も、学長の言う「率直に、共有し、改善する」をモットーに行っている。評価に関しては、後に、自己評価・点検の報告書を作成し公表することは無論のこと、今後とも5年を一つの目安としながら、自己点検・評価を行っていく予定である。

(2) 過去3ヶ年(平成18年度～平成20年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。なお過去3ヶ年(平成18年度～平成20年度)にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

前述の(1)で述べたとおり、平成18年度から20年度には、報告書を作成していない。次回の報告書作成は、平成21年度の予定で、対象期間は、平成16年度から20年度である。

これまでに作成した報告書は、東北6県の大学・短大等に送付した。

### 【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成20年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

本学では、自己点検・評価を行う際には、先の(1)で述べた教員で自己評価委員会を開催し、自己点検・評価の内容と方向性等を協議し、中堅教員を中心とした具体的な作業部会である自己評価専門委員会の構成員決定する。自己評価専門委員会は、自己評価委員会にその都度作業状況を報告し、作業を進めていく。最終的には、報告書が教授会に報告され、全教員の関与を経て公表される。また、具体的な作業を進める際には、事務局スタッフも加わっている。

今後とも、全教職員が自己点検・評価に何らかの形で関わる方法を模索し、本学の課題に全教職員が共通理解のもと、取り組んでいける体制を整えていきたいと考えている。

(2) 平成20年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

これまでに行われた自己点検・評価で見いだされた課題から改革の必要と判断された事項は、各種委員会や各学科にて、順次改革・改善が行われてきた。また、課題の内容によっては、校務分掌にある常設の委員会とは別に検討委員会を立ち上げ、解決に取り組んできた。それらは、例えば、前述したように食物栄養科においては、管理栄養士を養成する四年制大学への移行の検討である。また、幼児教育科においては、「児童厚生二級指導員資格」や「ネイチャーゲームリーダー」等の取得できる各種資格の増設に関する検討である。さらに、学生指導の改善を目的に、全学生が所属するゼミ活動の開設など、自己点検・評価で見い出された課題解決を図ってきた。

今後とも、自己点検・評価の結果を学内構成員で共有し、具体的な改革・改善に反映させ、地域に根ざし、信頼される短大の構築に努めていきたいと考えている。

### 【相互評価や外部評価について】

(1) 平成20年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

本学では、平成10年に相互評価についてその実施を検討したことはあったが、先方の都合で実施には至らず、結果的に実績がない状況である。外部評価についても実施していない。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。  
また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

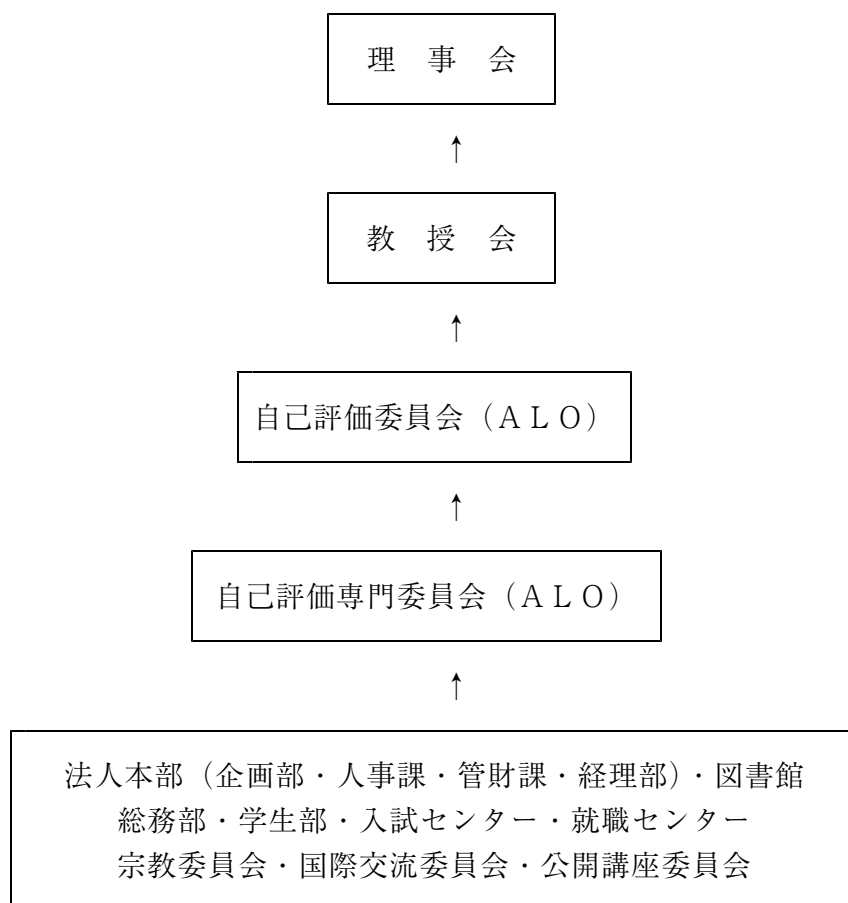
相互評価や外部評価を実施する際には、自己点検・評価と同じように自己評価委員会が主体となり、必要な作業委員会（自己評価専門委員会）が組織されることになる。特に、相互評価と外部評価のためだけの組織や規程等は整備していない。

今後については、今回の第三者評価を踏まえ、自己評価委員会で相互評価及び外部評価について具体的な検討を行いたい。

#### 【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を述べて下さい。

今回の第三者評価を受けるに当たり、ALOに学生部次長をあて、学長を委員長とする自己評価委員会において具体的な作業部会である自己評価専門委員会を立ち上げ、この専門委員会の事務担当者を事務局から配置し、報告書作成の準備と作業に当たった。



(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びA L O（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

116頁においても記したように、今回の評価で目指したところは「率直に、共有し、改善する」であった。こうした精神に基づきながら、以下若干の説明を加えたい。

本学では、昭和39年（1964年）に盛岡栄養専門学校を母体に生活学園短期大学が設置されて以来、キリスト教精神を基盤とする教育を通して、地域社会に貢献できる人材育成に努めてきた。創設以来、時代の変遷の中で、その都度、地域に求められる人材とは何かという命題に対して真摯に向き合い、様々な改革を行ってきた。

特に近年の大きな改革は、本学の出発点である食物栄養科を改組し、四年制大学に昇格させるという決断であった。平成22年度開学を目指して申請等の準備を着実に進めているところである。また、幼児教育科においても、社会状況を見極めながら、地域貢献という視点に立って、これまでも様々な改革と試行を試みてきた。

この度の第三者評価を期に、これまでの歴史と伝統を見直し、改革の歩みの検証の機会を得たことは、貴重な体験であった。本学の教育体制のあり方はこれで十分なのか、学生への支援体制はニーズに合っているのか、教員の研究体制と環境体制は整っているのか、そして研究成果はあがっているのかまた活用されているのか、法人の全体の管理運営体制は十分に機能しているのか、財政は健全なのか、教員スタッフと事務職員スタッフは本学の教育目標達成のために連携がなされているのか、そもそも教育目標が全教職員の間で共有されているか等々、改めて深く、再認識する機会となった。

そうした中で、明らかになってきた今後の主な改革・改善点は、FDへの取組みを強化し質の高い授業をさらに展開していくこと、卒業生の声を本学の教育に反映させる仕組みをどのように構築するかということ、食物栄養科改組後の幼児教育科のあり方を検討することなどであった。その他にも見直さなければならない事項は多々あると認識しているが、それらも含めて、今後さらに本学の教育理念を常に念頭に置きながら改革と改善に努めていきたいと考えている。

そのためには、定期的な自己点検・評価に努め、相互評価や外部評価も視野に入れながら、着実に改革と改善を行っていくことが肝要であると、改めて決意するものである。

盛岡大学短期大学部 自己点検・評価報告書作成に当たっての資料等の一覧

記述の根拠となる資料	自己点検・評価報告書に添付する資料	参考資料として訪問調査時に準備願うもの
<b>〈Ⅰ建学の精神・教育理念〉</b>		
* 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標等についての印刷物	○	
<b>〈Ⅱ教育の内容〉</b>		
1. 学生便覧等、学習等について学生に配布している印刷物	○	
2. シラバスあるいは講義要項	○	
3. 選択科目の履修について記載している印刷物		◎
4. 学生による授業評価票		◎
5. FD活動の組織（FD委員会等）についての規程		◎
<b>〈Ⅲ教育の実施体制〉</b>		
1. 教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、担当授業科目名等、④その他）		◎
2. 教員選考基準を示した規程等		◎
3. 校舎、校地に関する図面（全体図、校舎等の位置を示す配置図、用途（室名）を示した各階の図面、校地間の距離、校地間の交通手段等）		◎
4. 図書館等の規程		◎
<b>〈Ⅳ教育目標の達成度と教育の効果〉</b>		
1. 「学生の満足度」の調査票の様式		◎
2. 専門就職先からの卒業生に対する評価についての文書や資料		◎
3. 卒業生アンケート調査票等		—
<b>〈Ⅴ学生支援〉</b>		
1. 短期大学案内	○	
2. 募集要項、入学願書等		◎
3. 入学手続き者に対する入学までの情報提供のための印刷物等		◎
4. 学習や科目選択のための印刷物		◎
5. 学生支援のための学生の個人情報記録する様式		◎
6. 進路一覧票等の実績（過去3ヶ年）についての印刷物		◎
<b>〈Ⅵ研究〉</b>		
1. 教員個人の研究業績（過去3ヶ年）		◎
2. 教員の研究活動について公開している印刷物等（過去3ヶ年）		◎
3. 研究費（研究旅費を含む）等の支給規程等（規程がない場合は実績の一覧表）		◎
4. 過去3ヶ年の研究紀要・論文集等		◎

記述の根拠となる資料	自己点検・評価 報告書に添付 する資料	参考資料として 訪問調査時に 準備願うもの
<b>《Ⅶ社会的活動》</b>		
1. 社会人受け入れについての印刷物等	○	
2. 海外留学希望者に向けた印刷物等		◎
<b>《Ⅷ管理運営》</b>		
1. 寄附行為	○	
2. 学則	○	
3. 現在の理事・監事・評議員名簿		◎
4. 平成20年度の理事会議事録		◎
5. 学長選考規程		◎
6. 委員会規程等		◎
7. 事務組織についての諸規程		◎
8. 教職員の就業についての規程		◎
<b>《Ⅸ財務》</b>		
1. 資金収支計算書・消費収支計算書の概要（過去3ヶ年）	○	
2. 貸借対照表の概要	○	
3. 中・長期の財務計画（策定されている場合）		—
4. 資金等の保有と運用に関する諸規程等（整備されている場合）		◎
5. 寄附金・学校債の募集についての印刷物等（募集を行っている場合）		◎
6. 財務目録及び計算書類（過去3ヶ年）		◎
7. 固定資産管理規程、図書館規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程、財務諸規程		◎
<b>《Ⅴ学生支援》</b>		
1. 短期大学案内		◎
2. 募集要項、入学願書等		◎
3. 入学手続き者に対する入学までの情報提供のための印刷物等		◎
4. 学習や科目選択のための印刷物		◎
5. 学生支援のための学生の個人情報記録する様式		◎
6. 進路一覧票等の実績（過去3ヶ年）についての印刷物		◎
<b>《Ⅹ改革・改善》</b>		
1. 過去3ヶ年にまとめられた自己点検・評価報告書		—
2. 相互評価・外部評価の実施についての規程等		—
3. 第三者評価の実施についての規程等		◎

別紙様式 1

過去3ヵ年(平成18年度～20年度)の収支計算書の概要

【資金収支計算書/資金収入の部】

(単位:千円)

区 分	18年度		19年度		20年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	2,489,928	601,602	2,489,754	574,167	2,456,361	563,040
手数料収入	60,095	17,327	56,687	15,049	51,570	12,389
寄付金収入	15,492	4,743	8,782	2,800	48,483	2,731
補助金収入	408,286	76,304	387,966	73,093	394,972	74,985
資産運用収入	37,203	11,974	39,117	11,526	42,991	11,973
資産売却収入	250	21	2,634	2	71,371	1,255
事業収入	273,715	89,522	265,945	78,370	260,934	75,688
雑収入	112,537	28,043	130,588	14,361	93,755	24,349
借入金等収入	510,000	187,680	40,000	10,040	0	0
前受金収入	882,350	255,824	918,781	266,162	909,619	260,819
その他の収入	146,632	60,586	175,744	53,785	260,674	37,287
資金収入調整勘定	△ 1,002,259	△ 298,779	△ 989,275	△ 266,125	△ 1,016,385	△ 283,854
前年度繰越支払資金	232,227	0	437,488	0	794,407	0
収入の部合計	4,166,456	1,034,847	3,964,211	833,230	4,368,752	780,662

【資金収支計算書/資金支出の部】

人件費支出	1,757,194	417,663	1,749,221	396,061	1,719,396	410,580
教育研究経費支出	382,391	95,712	384,401	92,314	417,387	92,358
管理経費支出	249,224	64,473	251,776	60,528	253,990	61,151
借入金等利息支出	31,006	8,373	19,247	4,154	11,456	1,904
借入金等返済支出	1,206,380	448,100	613,880	196,293	112,770	26,512
施設関係支出	26,156	2,886	22,349	2,971	5,001	785
設備関係支出	21,894	3,523	24,908	5,338	48,548	5,347
資産運用支出	36,036	0	44,798	0	64,859	1
その他の支出	158,288	68,440	216,762	84,784	232,227	53,489
資金支出調整勘定	△ 139,601	△ 54,054	△ 157,538	△ 25,733	△ 113,863	△ 30,662
次年度繰越支払資金	437,488	△ 20,269	794,407	16,520	1,616,981	159,197
支出の部合計	4,166,456	1,034,847	3,964,211	833,230	4,368,752	780,662

【消費収支計算書/消費収入の部】

区 分	18年度		19年度		20年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金	2,489,928	601,602	2,489,754	574,167	2,456,361	563,040
手数料	60,095	17,327	56,687	15,049	51,570	12,389
寄付金	29,755	11,571	21,742	9,802	55,714	7,595
補助金	408,286	76,304	387,966	73,093	394,972	74,985
資産運用収入	37,203	11,974	39,117	11,526	42,991	11,973
資産売却差額	151	0	9	2	1,174	182
事業収入	273,715	89,522	265,945	78,370	260,934	75,688
雑収入	112,537	28,043	130,588	14,361	93,755	24,349
帰属収入合計	3,411,670	836,343	3,391,808	776,370	3,357,471	770,201
基本金組入額合計	△ 637,693	△ 150,476	△ 410,530	△ 112,998	△ 157,540	△ 34,546
消費収入の部合計	2,773,977	685,867	2,981,278	663,372	3,199,931	735,655

【消費収支計算書/消費支出の部】

人件費	1,750,607	391,303	1,791,888	415,258	1,742,941	401,985
教育研究経費	584,110	147,233	579,850	142,047	612,958	140,100
(うち減価償却費)	( 198,010 )	( 50,394 )	( 191,033 )	( 47,351 )	( 194,270 )	( 46,911 )
管理経費	336,336	95,678	337,064	87,662	324,607	83,784
(うち減価償却費)	( 87,120 )	( 31,207 )	( 85,286 )	( 27,133 )	( 70,625 )	( 22,635 )
借入金等利息	31,006	8,373	19,247	4,154	11,456	1,904
資産処分差額	210	15	5,711	1,469	1,863	296
徴収不能引当金繰入額(または徴収不能額)	6,119	0	3,339	0	1,610	0
消費支出の部合計	2,708,388	642,602	2,737,099	650,590	2,695,435	628,069
当年度消費収入(支出)超過額	65,589	43,265	244,179	12,782	504,496	107,586
前年度繰越消費支出超過額	6,958,730	3,027,254	6,708,248	2,983,989	6,458,660	2,971,207
基本金取崩額	184,893		5,409			
翌年度繰越消費支出超過額	6,708,248	2,983,989	6,458,660	2,971,207	5,954,164	2,863,621

短期大学名

盛岡大学短期大学部

別紙様式 2

平成20年度末の貸借対照表概要 (学校法人)

(20年度末日現在/単位:千円)

<b>資産の部</b>			
科 目	20年度末	19年度末	増 減
固定資産	9,140,125	9,418,487	△ 278,362
有形固定資産	9,004,965	9,212,950	△ 207,985
その他の固定資産	135,160	205,537	△ 70,377
流動資産	1,745,614	931,823	813,791
資産の部合計	10,885,739	10,350,310	535,429
<b>負債の部</b>			
固定負債	1,218,730	1,132,124	86,606
流動負債	1,177,460	1,390,611	△ 213,151
負債の部合計	2,396,190	2,522,735	△ 126,545
<b>基本金の部</b>			
基本金合計	14,433,244	14,286,234	147,010
<b>消費収支差額の部</b>			
翌年度繰越消費支出超過額	△ 5,943,695	△ 6,458,659	514,964